

PATHO News

自治医科大学 **病理診断部** No.5
2010. 4. 8
<http://www.iichi.ac.jp/pathology/>

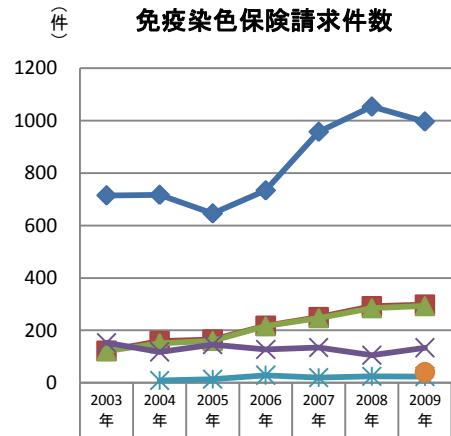
平成22年度 診療報酬改定情報 病理検査編

診療報酬の改定によって変更された病理診断関連項目を紹介します。

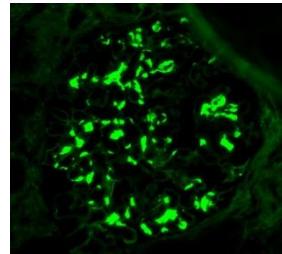
■免疫染色（免疫抗体法）は、すべての診療報酬がアップしました。 （350点→400点）

さらに、悪性リンパ種、悪性中皮腫、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍または軟部腫瘍が疑われる患者に対して確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色を施行して標本作製を実施した場合や腎生検における蛍光抗体法（7種類の抗体を用いて実施）に、診療報酬が加算されるようになります。（400点+1600点=2000点）

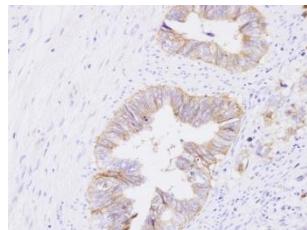
また、HER2に加えEGFRについても特別な診療報酬が追加記載されました。（690点）



	2009年度 保険点数	2010年度 保険点数
IHC	350点	400点 (4種類以上で+1600点を加算)
ER&PR	720+180点	720+180点
Her2	690点	690点
Mono.Ab	1,000点	1,000点
FISH	2,500点	2,500点
EGFR	0点	690点



腎生検 蛍光抗体法



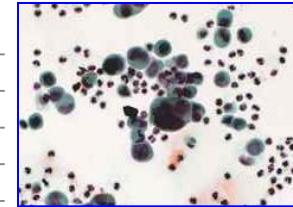
EGFR陽性 大腸癌

腫瘍細胞がEGFRタンパクを発現していれば、免疫染色では腫瘍細胞の膜に一致して、連続性あるいは不連続性の茶褐色の反応性が認められます。

EGFRの過剰発現はシグナル伝達系を混乱させ、細胞の腫瘍化・悪性化を惹起するだけでなく、様々な悪性腫瘍で過剰発現が確認されます。

EGFR免疫染色結果は、大腸癌に対する分子標的治療（セツキシマブ）選択の方針決定に用いられます。

■これまで診療報酬がついていなかった「術中迅速細胞診」が新設されました。 （0点→450点）

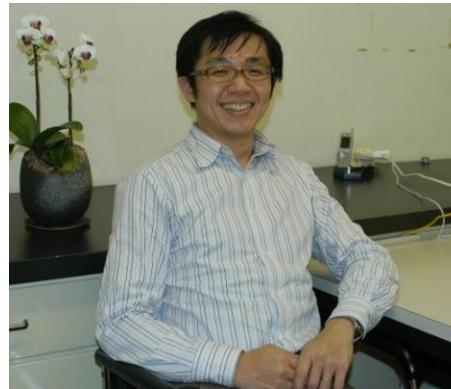


迅速検体と依頼用紙



■病理診断料（410点→組織診断料500点／細胞診断料240点）・病理判断料 （146点→150点）もそれぞれ診療報酬がアップされました。

新任教員紹介： 坂谷貴司 学内准教授



■略歴

- 1996年 鳥取大学医学部卒業
- 1996年 鳥取大学第一外科 研修医
- 1997年 鳥取赤十字病院外科 研修医
- 1998年 鳥取大学大学院医学系研究科 第一病理および生命科学科細胞工学で研究を行い、学位取得
- 2001年 Johns Hopkins University, Feinberg's Lab.にてポスドク
- 2004年 (財)西神戸医療センター 病理科 副医長
- 2006年 東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学助教
- 2008年 東京大学医学部附属病院 病理部 助教(配置転換)
- 2010年 自治医科大学 病理学講座 統合病理学部門 准教授

■はじめまして。4月1日付で統合病理講座に着任しました坂谷貴司と申します。生まれは兵庫県、平成8年鳥取大学卒業です。臨床、研究、診断とそれぞれ一定期間集中的にやってきました。4年前、東京大学病理学教室に於いてアカデミックポジションに就き、同附属病院病理部を経て、このたび自治医大に参りました。大学教員ですので研究はもちろん行いますが、診断も好きなのでカンファレンスなどを通じて臨床の先生方とコミュニケーションをとっていくことができたらと思っています。病理を選んだ理由のひとつは、顕微鏡を通して見える世界がとても美しく見えたからです。大学時代はサッカー部のキャプテンをしていましたので、体育会系的な部分があるかもしれませんが、気軽にお声掛けください。宜しくお願いいたします。

検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 (内線2257)

注) 土・日・祝祭日は剖検のみ受付 (内線2257 or PHS18218)

ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.5 2010. 4. 8

発行 : 福嶋敬宜(ふくしまのりよし)

編集 : TEAM
だっだっだっ

飛田野清美(ひだのきよみ) 柳田美樹(やなぎたみき)
田村聖月(たむらみづき) 滝沢晴美(たきざわはるみ)